令和５年度学校評価自己評価報告書および学校関係者評価報告書

高島市立青柳小学校

学校教育目標	校訓　「良知に生きる」 学校教育目標 自ら学び　心豊かでたくましい　子どもの育成

昨年度の評価概要	○学運協で企画した運動場の除草作業を２回実施したところ、保護者や地域の方にたくさん来ていただけた。来年度も学運協やＰＴＡ、ＡＣと協力して、つながりを横に広げていけるといい。子どもらといっしょに活動できる形も続けてほしい。 ○中江藤樹先生の地元であるので、校訓「良知に生きる」を大切にして、藤樹先生の教えを継続実践していくことを望む。 ○「学校・地域連携カリキュラム」には写真を入れてわかりやすく工夫し、地域の支援が必要な取組には「ボランティア募集」の言葉を入れるとよい。もっと地域の人に見てもらえる機会があってもいいし、学校だけで難しいことがあれば地域をよい意味で巻き込んでもいい。

中期的目標	めざす子ども像 　徳：たがいに思いやる子 　知：よく考え実行する子 　体：明るく元気な子 めざす学校像 　地域とともにある学校

評価項目（指導力点）	指標：到達目標（成果指標・取組指標）	達成状況	評定		改善方策	学校関係者評価
○学力の向上 ・「我が校の学ぶ力向上策」の改善により学力向上を図る。 ・保護者と学校が連携し、学力向上の土台づくりに取り組む。 ・基礎基本の定着と活用力の向上を図るため、算数科・理科・社会科等の専科指導を充実させる。 ・ＩＣＴ機器の有効活用を図る。	・学ぶ力向上策の推進において、学期ごとのＰＤＣＡサイクルで評価、改善を加え実効性のあるものにする。	全国学力・学習状況調査の分析を踏まえた学力向上策を推進。ＯＪＴ等で各学年の取組を交流し授業改善に生かした。	B	B	学力向上推進委員会を中心に、進捗状況の確認と改善方策の検討。	・九九道場は、計算の基礎であり、継続しての取組は学力向上に有効である。 ・タブレットが授業の補助として児童にとって抵抗なく使用されている。機器に使われることなく、機器をうまく利用して学力向上に努力されている。書く活動や自分の考えや思いを発表し合う場も大切にしていきたい。 ・小学生の時から勉強のやり方を身に付けておくことが大切（特に自主学習の習慣は大切）。
	・自己肯定感を育む活動(PTA「長所の花を咲かせよう」運動)の継続実践と振り返り。	継続はできているが、実施後の検証（考察）が必要である。活動の目的を十分に周知し、実施後は検証を行っていく。	B		今後もＰＴＡ研修部からの呼びかけで継続して取り組んでいく。	
	・「先生はわからないときに丁寧に教えてくれる」（児童評価90％以上）	児童の疑問等には個別指導を中心に丁寧に対応することを心掛けた。(児童評価97％)	A		学習のつまずきや疑問については、個別対応でサポート。	
	・ICT機器の効果的な活用により「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実を図る。	授業における学習ツールとして意見交流や学習のまとめで効果的に活用できているが、工夫の余地があると思われる。	A		研修等で学んだ活用法を職員間で交流し実践に生かす。	
○言語活動の充実 ・国語科における言語活動を基盤として各教科での言語活動の充実を図り、思考力、判断力、表現力を育む。 ○読書活動の充実を図る。 ○小中一貫教育の推進 ・高島市小中一貫標準カリキュラムを活用し、めざす１５才の姿の共有のもと各段階の教育活動に取り組	・校内研究のテーマ「良知を磨く「考え、議論する道徳」の在り方」の研究実践を積み重ねる。	研究指定事業との関連で熟考された授業ができており、次年度へつながる実践の積み重ねができている。	A	B	藤樹先生に関わる地域教材を活用した道徳授業を研究していく。	・道徳教育実践推進校として授業に取り組まれ、児童に「心」の大切さが認識されている。タブレットも話し合うためのツールとして有効活用されている。道徳の学習の足跡を掲示されているのもよかった。 ・図書館に出かけたりブックトークを取り入れたり、いろんな分野の本と出合い「読むこと」が楽しくなる工夫がされている。 ・朝読書やＰＴＡ「読書カレンダー」など、子どもたちが本に親しめる工夫はとても良い。家庭での読書習慣の評価が低いので、今後、毎週○曜日に３０分ほどの親子読書タイムに取り組んでみてはどうか。
	・授業では、振り返りの時間を中心に「書く活動」を多く取り入れ、「読み解く力」の向上を図る。	ワークシートを取り入れ、書くことに慣れるよう教材の工夫を行った。授業内での「書く活動」の時間確保が課題。	B		毎学期、「書くこと」の単元で題材設定や文章表現、推敲の学習過程を丁寧に行う。	
	・学校・家庭における読書活動の充実により、読書の楽しさを実感させ、読書習慣の定着を図る。	「朝読書」が定着。ＰＴＡ「読書カレンダー」の取組実施。家や学校でいろいろな本を読んでいる…児童評価80％	B		図書館や図書室に出かけ、児童個々に合った本の選定ができるようにする。	
	・小中教職員による共同授業研究を充実させ、小中学校の学習のつながりを意識した授業づくりに取り組む。	小中教員が「学びの基礎部会」「学びの充実部会」「学びの発展部会」の３部会に分かれ、授業づくりに取り組んだ。	A		道徳科を中心に他教科でも小中学校の連携を進めていく。	
○集団づくり ・けじめのある生活を送ることのできる集団を育成する。 ・周りの子どもたちや大人に対して思いやりの気持ちをもって接することのできる集団を育成する。 ・異学年交流を通して望ましい人間関係の育成とリーダーを育てる。	・いじめ未然防止の日常的取組。生徒指導の情報交換やケース会議等による事案への早期かつ適切な対応。	未然防止の取組、生徒指導に係る定期的な報告と情報共有、事案発生時の早期かつ組織対応はできている。	A	A	未然防止のため、職員の意識を高め些細な出来事も見逃さない。	・「おはよう」「こんにちは」集団登下校時の挨拶は気持ちが良い。「あいさつ運動」は引き続いて取組をお願いしたい。青柳小の子どもたちは、挨拶を返してくれる子が多い。 ・雪道の登校では、上級生が先頭で下級生に気を配りながら登校していた。 ・少人数学級であり。児童全員に目配りができており、いじめなどの未然防止となっている。 ・たてわり活動、１，６年ペアの掃除、運動会等を通して、上学年と下学年が良い関係で学校生活を送れている。
	・「進んであいさつや返事をしている」(児童評価90％以上)	「おはようございます　さようなら」などのあいさつや返事をしている…　児童評価95％　保護者評価76％	A		ＰＴＡ、ＡＣ等の各種団体と連携したあいさつ運動の推進。	
	・あらゆる教育活動を通して、周囲の友達や他学年の友達のことを考え、思いやりの気持ちを育てる。上級生は下級生をいたわり、下級生は上級生に感謝の気持ちを持てるよう指導する。	学級活動や道徳科の授業を中心に他者を思いやる気持ちや行動について考える機会を多く設定。１年生と６年生が一緒に清掃を行い、６年生は１年生をいたわり、１年生は６年生に感謝の気持ちを持てるようにしている。	A		道徳教育、人権教育を柱とした心の教育を大切にしていく。今後も１年生と６年生が一緒に清掃を行う。	
	・異学年交流や児童会活動の活性化を図る。（たてわり活動、集団登下校、運動会等）	たてわり活動や全校的な行事では協力して活動している…児童評価93％　児童会で様々なイベントも実施。	B		藤樹デーや運動会以外にも、たてわり班で活動できる場を工夫。	
○藤樹学習を中心とした地域連携 ・中江藤樹の教えを学ぶ機会や地域の文化や伝統を取り入れた学習を取り入れる。 ・ＰＴＡやＡＣ（青柳コミュニティ）、地域学校協働本部との連携を深める。	・「藤樹デー」「大洲小学校との交歓会」等、青柳小ならではの取組の充実。	「藤樹デー」や「大洲小との交歓会」「立志祭」は藤樹先生の教えを学ぶ伝統行事として実施でき、児童も達成感を感じている。	A	A	藤樹先生の教えを学ぶ伝統行事として継続・発展させていく。	・藤樹先生生誕の地にある小学校として、様々な取組がされており、人口減、高齢化社会の中で児童が藤樹先生の教えを学んでおり、心強い思いである。 ・藤樹デーや大洲小との交流会など、青柳小ならではの学習はとても良い。 ・普段の生活の中で藤樹先生の教えを意識できるように、「五事を正す」「貌、言、視、聴、思」を低学年でもわかる言葉で示してはどうか（例えば児童会テーマなど合言葉をみんなで考える）。 ・学校地域連携カリキュラムを通じて、学校活動を地域の人に知ってもらい、地域連携が図れている。
	・「学校では藤樹先生に関係する勉強をやっている」(児童評価90％以上)	総合的な学習の時間を中心に、学年の発達段階に合わせて実施。地域人材の活用による学習も進んでいる。(児童評価96％)	A		藤樹先生の教えを道徳科の地域教材として積極的に取り上げていく。	
	・学校運営協議会での熟議を通して、目指す子ども像の実現に向け地域学校協働活動の充実を図る。	学校運営協議会での熟議を重ねるごとに、地域学校協働活動が充実してきた。学校の現状を知っていただく機会にもなっている。	A		今後も協議会での熟議を行い、地域連携の取組充実を図る。	
	・学校運営協議会、ＰＴＡ、ＡＣ（青柳コミュニティ）、地域学校協働本部等と連携した取組。	保護者ボランティアによるきめ細かな指導、安全確保が図れた。学校地域連携カリキュラムを年度末にリニューアル。	A		学校地域連携カリキュラムの更新と保護者ボランティアの発掘。	

学校関係者評価	総評	評定	学校関係者評価を踏まえての改善点
	・学校地域連携カリキュラムは、コンパクトに学校の１年間の活動が凝縮された広報活動紙である。行事紹介や行事の写真も多く挿入され、大変見やすく改善がされてきた。また、カリキュラムの地域掲示・回覧によって「掃除の日」が広報されている。児童を通じてさらに参加者を増やして児童と共に「きれいな校庭・運動場」にしていきたい。 ・藤樹先生生誕の地にある小学校として様々な取組がされており、藤樹先生の教えを学んでいる。テレビ会議システムでの大洲小学校との交歓会など『青柳小学校ならではの行事』に引き続き取り組んでいただきたい。 ・校内の先生方と意見を交わしながら学校地域連携カリキュラムの見直しができ、より良いものへと改訂していけたことが良かった。保護者を中心に、さらに地域の方へ活動の輪を広げていけるよう今後も工夫していきたい。 ・文科省の「道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業」の推進校として、今後も道徳教育の研究に取り組んでいただきたい。 ・子どもたちから地域の方々にボランティアのお願いなどの発信をすると参加者も増えるのではないか。子どもたちも「やってもらえる」ではなく、地域の方と一緒に参加する、地域の活動にも子どもたちがボランティアとして参加すると、お互いに協力し合える形ができるのではないか。	B	・藤樹先生の教えを学校教育の中核に据え、これまでの『青柳小学校ならではの行事』のみならず、日常の学校生活の中でも藤樹先生の教えを意識させ、実践につなげられるような取組をしていく。また、道徳科授業でも藤樹先生の教材活用について研究していく。 ・読書活動については、地元の図書館との連携を図り、ブックトークの継続や図書館訪問（本を借りる）を増やしていく。また、家庭での読書習慣の定着を図るために、ＰＴＡ研修部主催の「読書カレンダー」に加えて、定期的に３０分ほどの「親子読書タイム」のような取組を設定するなど、家庭と連携した取組も検討していきたい。 ・次年度以降も「学校地域連携カリキュラム」に基づく地域学校協働活動の更なる見直しを図り、カリキュラムを「地域とともにある学校づくり」の重要なツールとして保護者や地域に広報し、協働活動の充実を図っていく。今後は、現在支援してくださっている地域ボランティアだけでなく、保護者に教育活動への参加（例えば安全確保の見守りを兼ねて校外行事に参加するなど）を呼び掛け、ボランティアを増やしていく。協働活動がボランティアや学校職員にも過度な負担にならないよう、持続可能な活動として定着できるように留意したい。

４段階評定（A　目標を十分に達成　　B　ほぼ目標を達成　　C　やや不十分　　D　改善を要する）